

(4) ヨウ化物 本品 0.5 g を水 10 mL に溶かし、塩化鉄(Ⅲ)試液 3 滴及びクロロホルム 1 mL を加えて振り混ぜ、30 分間放置し、再び振り混ぜるとき、クロロホルム層は赤紫色～紫色を呈しない。

(5) 重金属 本品 4.0 g をとり、第 1 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (5 ppm 以下)。

(6) カルシウム又はマグネシウム 本品 0.20 g を水 20 mL に溶かし、アンモニア試液 2 mL、シュウ酸アンモニウム試液 2 mL 及びリン酸水素二ナトリウム試液 2 mL を加え、5 分間放置するとき、液は混濁しない。

(7) ナトリウム 本品 1.0 g を水 20 mL に溶かし、炎色反応試験(1)を行うとき、持続する黄色を呈しない。

(8) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 1 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 130 °C, 2 時間)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.2 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、強く振り混ぜながら 0.1 mol/L 硝酸銀液で滴定する (指示薬: フルオレセインナトリウム試液 3 滴)。

$$0.1 \text{ mol/L 硝酸銀液 } 1 \text{ mL} = 7.455 \text{ mg KCl}$$

貯法 容器 気密容器。

塩化カルシウム

Calcium Chloride

$\text{CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$: 147.01

本品は定量するとき、塩化カルシウム ($\text{CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$) 96.7 ~ 103.3 % を含む。

性状 本品は白色の粒又は塊で、においはない。

本品は水に極めて溶けやすく、エタノール (95) にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は潮解性である。

確認試験 本品の水溶液 (1 → 10) はカルシウム塩及び塩化物の定性反応を呈する。

pH 本品 1.0 g を新たに煮沸して冷却した水 20 mL に溶かした液の pH は 4.5 ~ 9.2 である。

純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g を水 20 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 硫酸塩 本品 1.0 g をとり、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 0.50 mL を加える (0.024 % 以下)。

(3) 次亜塩素酸塩 本品 0.5 g を水 5 mL に溶かし、希塩酸 2 ~ 3 滴及びヨウ化亜鉛デンプン試液 2 ~ 3 滴を加えるとき、液は直ちに青色を呈しない。

(4) 重金属 本品 2.0 g をとり、第 1 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (10 ppm 以下)。

(5) 鉄、アルミニウム又はリン酸塩 本品 1.0 g をネスラー管にとり、水 20 mL 及び希塩酸 1 滴を加えて溶かした後に煮沸する。冷後、アンモニア試液 3 滴を加え、沸騰するまで加熱するとき、液は混濁又は沈殿を生じない。

(6) バリウム 本品 0.5 g を水 5 mL に溶かし、希塩酸 2 滴及び硫酸カリウム試液 2 mL を加え、10 分間放置するとき、液は混濁しない。

(7) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 1 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

定量法 本品約 0.4 g を精密に量り、水に溶かし、正確に 200 mL とする。この液 20 mL を正確に量り、水 40 mL 及び 8 mol/L 水酸化カリウム試液 2 mL を加え、更に NN 指示薬 0.1 g を加えた後、直ちに 0.02 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液で滴定する。ただし、滴定の終点は液の赤紫色が青色に変わるときとする。

$$\begin{aligned} &0.02 \text{ mol/L エチレンジアミン四酢酸} \\ &\text{二水素二ナトリウム液 } 1 \text{ mL} \\ &= 2.9402 \text{ mg CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O} \end{aligned}$$

貯法 容器 気密容器。

塩化カルシウム注射液

Calcium Chloride Injection

本品は水性の注射剤で、定量するとき、表示量の 95 ~ 105 % に対応する塩化カルシウム (CaCl_2 : 110.98) を含む。

本品の濃度は塩化カルシウム (CaCl_2) の量で表示する。

本品には発熱性物質試験を適用しない。

製法 本品は「塩化カルシウム」をとり、注射剤の製法により製する。

性状 本品は無色澄明の液である。

$$\text{pH} : 4.5 \sim 7.5$$

確認試験 本品はカルシウム塩及び塩化物の定性反応を呈する。

定量法 本品の塩化カルシウム (CaCl_2) 約 0.4 g に対応する容量を正確に量り、以下「塩化カルシウム」の定量法を準用する。

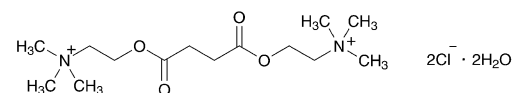
$$\begin{aligned} &0.02 \text{ mol/L エチレンジアミン四酢酸} \\ &\text{二水素二ナトリウム液 } 1 \text{ mL} \\ &= 2.2197 \text{ mg CaCl}_2 \end{aligned}$$

貯法 容器 密封容器。

塩化スキサメトニウム

Suxamethonium Chloride

スキサメトニウム塩化物



$\text{C}_{14}\text{H}_{30}\text{Cl}_2\text{N}_2\text{O}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$: 397.34

2, 2'-Succinyldioxybis(*N*-ethyl-*N*, *N*, *N*-trimethylammonium) dichloride dihydrate [6101-15-1]

本品は定量するとき、換算した脱水物に対し、塩化スキサ